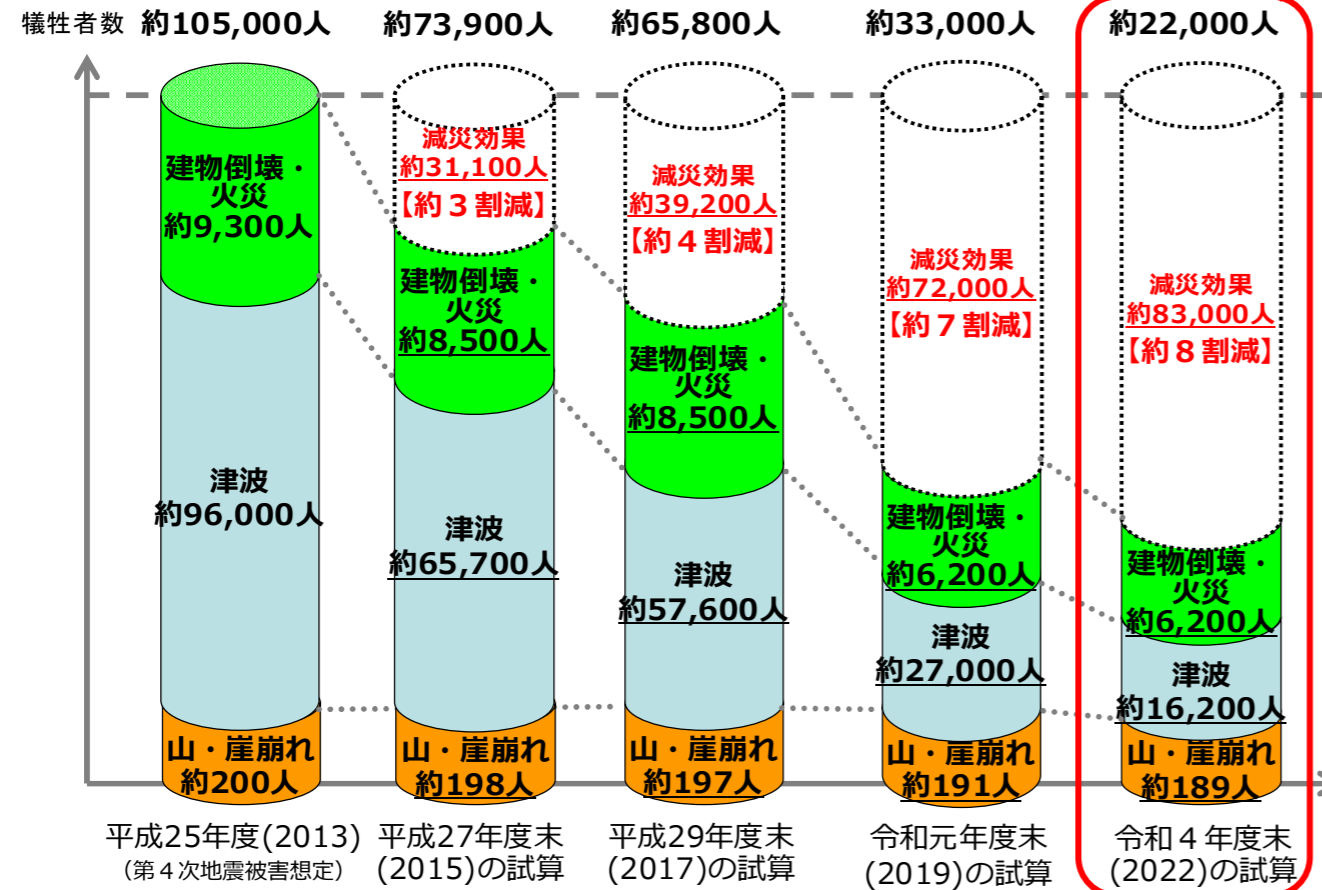


地震・津波対策アクションプログラム 2013 10年間の成果の概要

1 減災効果の進捗状況

ハード・ソフトを組み合わせた対策の推進により、令和4年度末に想定犠牲者の**約8割となる約83,000人の減災を達成**



2 各アクションの目標達成状況

10年間の各アクションの着実な推進の結果、189のアクションのうち、**144アクションが概ね数値目標を達成した**。

(令和4年度末照会時点)

区分	アクション数
数値目標を達成したアクション	104
数値目標をほぼ達成したアクション※	40
数値目標が未達成のアクション	45
合計	189

} 144アクション

※「ほぼ達成」は、数値目標の90%以上を達成したもの

令和4年度末の減災効果

約83,000人(約8割減災)

①津波 約79,800人減(想定犠牲者数:約96,000人→約16,200人)

防潮堤による減災 約17,800人減

・レベル2津波に対する浜松市沿岸域防潮堤や吉田町の静岡モデル防潮堤の整備、レベル1津波にする富士海岸や蒲原海岸等の海岸堤防の整備により、浸水面積が減少

		被害想定時 (H25.3)	R1時点	R4時点	APの進捗
整備済	L2(静岡モデル)	0km	26.1km	36.7km	+36.7km
	延長	170.2km	203.8km	213.4km	+43.2km
浸水面積※		163.9km ²	131.6km ²	129.9km ²	▲34.0km ²

※浸水面積は各市町における最大の浸水面積となる想定ケースの合計

避難による減災 約62,000人減

- ・避難施設の整備・確保により、浸水区域内の避難対象者の避難場所をカバー※1
 - ・わたしの避難計画等の推進により津波浸水想定区域内の住民の早期避難意識を向上※2
- ※1 各市町の津波避難計画に対する津波避難施設への避難可能人数より避難施設カバー率を算出
 ※2 沿岸21市町の津波浸水想定区域内の住民の早期避難意識率をアンケート調査により把握

		被害想定時 (H24.5)	R1時点	R4時点	APの進捗
避難施設	避難ビル	1,120	1,348	1,317	+197
	避難タワー、命山等	10	179	183	+173
	避難施設カバー率	—	97%	98%	—
早期避難意識		20%	68%	81%	—

②建物倒壊・火災 約3,100人減(想定犠牲者数:約9,300人→約6,200人)

住宅・土地統計調査の結果から、耐震化による住宅倒壊・火災からの被害軽減効果を推計(次回調査はR5)

		被害想定時 (H20.10)	H30時点	APの進捗
住宅・土地統計調査	耐震化率	79.3%	89.3%	+10.0%

③山・崖崩れ 約11人減(想定犠牲者数:約200人→約189人)

施設整備により保全された人家戸数をもとに山・崖崩れによる被害軽減効果を算出

		被害想定時(H25.3)	R1時点	R4時点	APの進捗
土砂災害防止施設の整備箇所		—	208	281	+281
保全戸数		—	2,780	3,820	+3,820

○減災効果 ①+②+③ = 82,911(減災率 78.96%) ≒ 約83,000人(約8割減災)